

見て 聴いて
触れて 体験して

京都府立丹後郷土資料館を活用した

(ふるさとミュージアム丹後)

学びのガイドブック

京都府立丹後郷土資料館を活用した
学びのガイドブック



明日を担う「丹後の人」育成事業

平成 29 年 5 月発行

京都府丹後教育局

〒626-0044 京都府宮津市字吉原 2586-2

電話 0772-22-2175

<http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-k/>

本書に関わる著作権は京都府丹後教育局にあります。

京都府丹後教育局

京都府丹後教育局

はじめに

丹後地域には海、山、里の美しく豊富な自然や、丹後王国を彷彿させる古墳、遺跡をはじめ地域に受け継がれてきた歴史・文化遺産が今も数多く残されています。

自然・歴史に恵まれたこの丹後地域に生まれ育った子ども達が「ふるさと丹後」に対する理解を一層深め、誇りと愛着を醸成し、自己の生き方や在り方についての考えを深める一つのきっかけとするため、丹後教育局では、丹後郷土資料館と連携し、本ガイドブックを作成しました。

丹後地域では、全国的な傾向と同様、少子高齢化が進行し人口減少が進んでいく状況にあります。またそれに加え、成長した子ども達が丹後地域を離れていく過疎化も進行する現状を踏まえ、将来、地域を支え地域づくりに貢献・活躍できる人材を育成することは、丹後地域の教育の大きな課題となっています。

平成 28 年度京都府学力診断テストの質問紙調査の結果によると、「今住んでいる地域の自然や歴史について関心がある」「地域の行事に進んで参加している」という質問に対して、肯定的に回答した児童生徒の割合は府平均に比べ 10～30% も高いなど地域への関心の高さが窺えます。これは、「ふるさと丹後」への誇りや愛着をはぐくむため、歴史や文化、伝統、産業等への関心を高め、よりよい地域を築こうとする実践的な態度や自己の生き方や在り方を考え将来への夢・希望をはぐくむこと等に各校がこれまで取り組まれた成果であると思います。

丹後教育局としましても、これら各校の動きをより一層充実させていくための一つの方策として、本ガイドブックを作成し、学校と丹後郷土資料館との連携を進めていけるよう支援したいと考えています。

昨年度（平成 28 年度）丹後郷土資料館では、小・中・府立学校等延べ 56 校に対し学校支援の取組を行っています。専門性を生かした学校教育支援として、丹後郷土資料館を訪問して行う体験活動はもちろんのこと、学校の所在地に合わせた地域教材の学習、学校からの依頼に応じた形での出前授業、教員対象のフィールドワーク等も実施しています。このような丹後郷土資料館ならではの専門性を生かした取組を、より多くの学校が有効に活用し、丹後の小・中学生のもっている地域の自然や歴史についての関心に応える教育を今後も展開していただきたいと考えています。

本ガイドブックは、丹後郷土資料館をこれまで活用したことのない先生方にも、丹後郷土資料館がどのような施設で、どのような活用方法があるのかを知っていただくために施設の紹介もしています。活用例を含めた学習プログラムも掲載していますが、掲載しているプログラムはあくまでも一例ですので、各校の創意工夫でさまざまな活用方法を探っていただければと思います。また、これらの学習を教科・領域と関連付け教育課程に組み込んでいくことで、授業で学んだことを確かめたり、次の学びにつなげたり等、学びを深め、広げていく機会にさせていただきたいと考えています。丹後教育局としましても、今後も丹後郷土資料館との連携を推進し、さらなる情報発信を行っていきたいと考えています。

本ガイドブックが各校での学びを深め、子ども達の「ふるさと丹後」への思いをより一層強め、将来、地域を支え、地域づくりに貢献・活躍できる人材育成につながるきっかけになることを願ってやみません。

目 次

1	丹後郷土資料館の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
	・施設紹介	
	・利用案内	
	・学校教育支援	
	・展示室等紹介	
	・資料館本館の活用	
	・所蔵図書の利用	
	・体験活動	
	・出前授業	
	・収蔵資料等の貸出	
	・写真パネルの貸出	
2	旧永島家住宅（京都府指定有形文化財）の紹介・・・・・・・・	9
	・昔のくらし体験（食）～ごはん・味噌汁～	
	・昔のくらし体験（衣）～道具を使って～	
	・昔のくらし体験（衣・住）～道具を使って～	
	・農業体験～石うす・唐箕等～	
	・昔のくらし体験（食）	
	・紙すき	
3	体験学習・出前授業の例・・・・・・・・・・・・・・・・	16
	・石のナイフづくり	
	・土器づくり	
	・勾玉づくり	
	・銭づくり	
	・火おこし体験	
	・綿繰り・糸紡ぎ体験	
	・昔のくらしとかまど体験	
	・国分寺について	
	・天橋立について	
	・丹後の昔話・伝説について	
4	参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・	26
	・丹後郷土資料館 平成 28 年度管内体験活動・出前授業等一覧	
	・丹後郷土資料館 資料借用依頼書	
	・丹後郷土資料館 展示室観覧料減免申請書	

1 丹後郷土資料館の概要



京都府立丹後郷土資料館は、昭和45年11月に開館した資料館で、京都府北部の歴史・考古・民俗等の資料の収集・調査・研究・展示を行っています。資料の総点数は10万点以上に及びます。

本館のほか、丹後国分寺跡（国史跡）や旧永島家住宅（府指定建造物）があります。



施設紹介

●本館

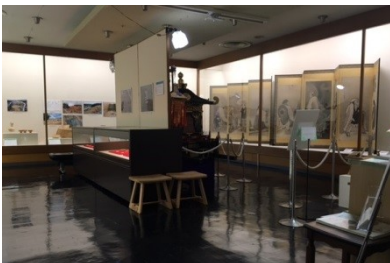
1階展示室



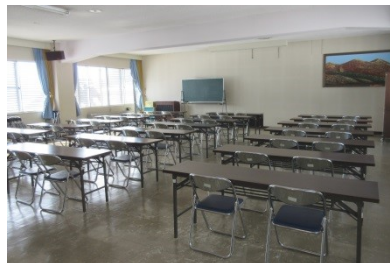
●旧永島家住宅



2階展示室



研修室（50名程度収容）



●丹後国分寺跡



利用案内

●開館時間 午前9時～午後4時30分

●休館日 毎週月曜日
月曜日が祝日の場合は開館し、直後の平日を休館とする

●観覧料 学校教育活動は申請により無料

●住所 〒629-2234
京都府宮津市宇国分小字天王山 611-1

●連絡先 TEL 0772-27-0230 FAX 0772-27-0020

●ホームページ
<http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-m/>

●アクセス

山陰近畿自動車道「与謝天橋立IC」から車で約10分



学校教育支援

- **見学説明** ・ 常設展示、企画展示、特別展示、史跡丹後国分寺跡、旧永島家住宅など
- **体験活動** ・ 江戸時代の大庄屋住宅「旧永島家住宅」を利用して行う昔のくらし体験（かまど炊飯、石臼挽き、糸紡ぎなどの体験活動）
・ 勾玉づくり、火おこしなどを通じた歴史体験活動
- **出前授業** ・ 出土品や民具などを持参し、丹後の文化財や昔の生活に触れる社会科や総合的な学習の時間に対応した出前授業
・ 「ふるさと丹後」の講義や校区の歴史・遺跡のフィールドワークなど
- **収蔵資料等貸出** ・ 土器、民族の実物資料や火おこし道具、綿繰り機、糸車など体験道具の貸出
- **パネル貸出** ・ 京都府文化財として登録された丹後震災記録写真ガラス乾板から拡大プリントした写真パネルの貸出

展示室等紹介

- **本館（1階展示室）** 常設展では、縄文時代から近代までの「丹後の歴史と文化」を紹介





森島 康雄さん

(資料課長・考古担当)

出前講座では、子ども達の日常の行動範囲にある遺跡を紹介することで、遺跡が遠い世界だけのものではないこと知ってもらうとともに、身近な遺跡が教科書に載っている歴史とつながっていることを伝えたいと思っています。また、土器などを実際に手に取ってもらうことで、写真や展示ケース越しに見ているだけではわからない手触りや重さを実感してもらっています。

私は初めて土器をさわりました。教科書で見たのとは、全然ちがいました。教科書では、あつさも重さも分からなかったのですが、実際にさわられたので、よかったです。今は食料が自由に入るけど、昔はかりや漁に行くと、食料をとりに行くのは、すごいなあと思いました。貝などで、土器のがらをつくっていて、工夫がすごいなあと思いました。今日習ったことを、勉強に生かしたいなあと思いました。説明も細かいところまであり、よかったです。本当にありがとうございました。

(小学6年生)



資料館への手紙より

●本館（2階展示室） 丹後に関する特別展や企画展を開催



吉野 健一さん (主任・歴史担当)

教科書では、地域の歴史に触れる部分はほとんどありませんが、時代時代にこの地域に生きた人々がいます。その人たちの営みを知ることによって、様々な歴史に興味を持ってもらい、地域理解に役立ててほしいという思いでお話をしています。話をした日の帰り道に、みなさんが通るいつもの道が、少しでも変わって見えたら嬉しいですね。

岩滝や丹後の歴史を分かりやすく教えてくださいありがとうございました。私たちの身近なところにはどんな歴史があるのか知れてよかったです。ありがとうございました。

(小学6年生)



資料館への手紙より

●旧永島家住宅 昔の道具を多数展示 「紙すき」「そばづくり」などの体験の会場としても使用



青江 智洋さん
(副主査・民俗担当)

民俗とは、人々が暮らしの中で生みだし、伝えてきた知恵や風習などをいいます。出前講座では、今から50~100年前に使われていた生活用具を持参して、私たちの暮らしが昔と今ではどのように変化したのかといったことについてお話しています。また、それらの道具を観察したり、触れるなどして昔の暮らしを考えたり、先人の知恵を発見したりしてもらっています。

先日は、お時間をいただきありがとうございました。わたしは、昔の人はどんな生活をしていたかわからなかったけれど、かまど体けんなどをして、昔の人は、電気やきかいがなくて大へんだなと思いました。それに、昔の人が住んでいた家はどんな所かも分かったし、昔の人が使っていた道具もさわって勉強にもなったし、楽しかったです。本当にありがとうございました。

(小学3年生)



資料館への手紙より

資料館本館の活用

資料館に来館すると、多くの展示品について学芸員の方から分かりやすく説明を受けることができます。社会・歴史、総合的な学習の時間といった学習だけでなく、理科、美術、技術・家庭等様々な教科の内容に合わせて活用できます。

● 1階 第1展示室 常設展「丹後の歴史と文化」



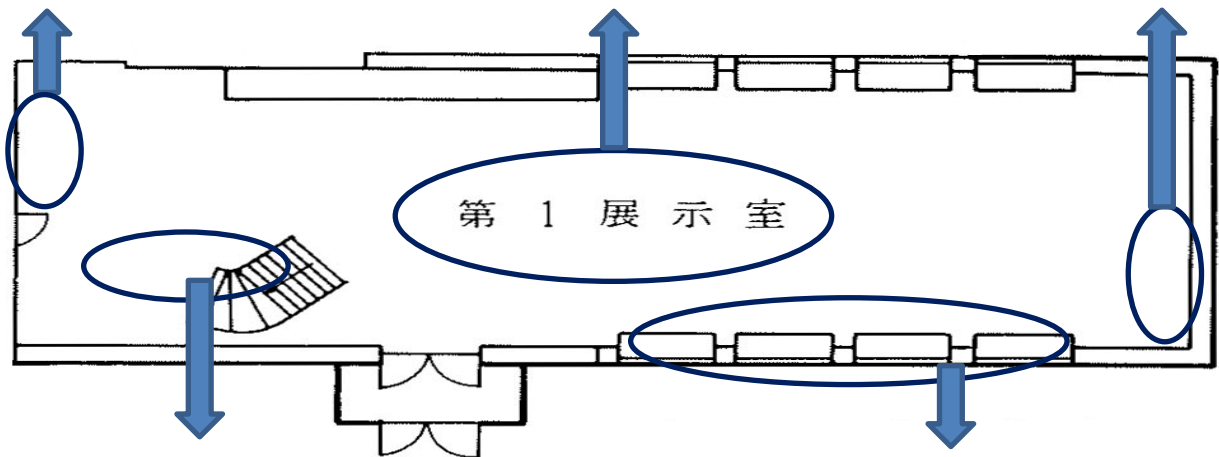
丹後地域独特の織物である藤織り（植物の藤の樹皮を糸とした織物）や、さきおり（横糸に古くなった布を裂いて細く紐状にして布を織り込む織物）の着物等を見ることができます。



昔、伊根湾や栗田湾では、くじら漁が行われていました。当時の様子が分かる写真や漁業道具、捕鯨道具等が展示されていて、昔の丹後の漁業について知ることができます。



京丹後市久美浜町の湯舟坂2号墳から出土した金色に輝く長大な刀です。持ち手の先端には龍が向き合うようにデザインされており、全国的にもとてもめずらしいものです。



資料に触れたり、歴史をより楽しく学べるコーナーがあります。文字いっぱいの江戸時代の教科書や、丹後国の国印レプリカ、銅鐸等のめずらしいものに触れ、昔の人達の生活に思いをはせることができます。展示室横のロビーでDVDを観ることもできます。



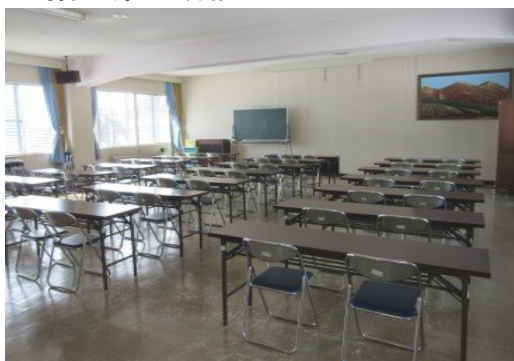
丹後地域の古墳から出土した土器、刀、装飾品等縄文時代から近代までの様々な資料が年代順に展示されています。

● 2階 第2展示室 特別展・企画展等



丹後の歴史について、「特別展」「企画展」として漁業、風習、文化等様々な面から資料が展示されています。2、3ヵ月ごとに内容を変えて展示され、資料館を訪れるたびに丹後の魅力や歴史について新しい発見ができます。

● 2階 第1研修室



収容人員は約50人です。黒板・プロジェクター等の設備があるので、研修室で講義を聞いた後で館内展示の説明を受けたり、研修室で体験活動をしたり、様々な活用ができます。

また、先生方の研修会の場としても利用できます。

(減免制度有り)

● 本館前庭・資料館近辺



郷土資料館は高台にあり、本館前からは美しい天橋立を一望することができます。坂や階段を下りると国分寺跡や小さな川があります。今は芝生となっているのでお弁当を食べることもできます。

所蔵図書の利用



丹後地域に関わる多くの資料が所蔵されています。閲覧も可能ですので、丹後各地域の歴史や文化等学ぶことができるとともに、必要な情報も得られます。

(閲覧希望については、事前に連絡)

体験活動

資料館にある昔の道具で、様々な体験を行うことができます。また、出前講座で可能な体験内容もあります。クラブ活動や親子行事での体験も可能です。(詳細は、要相談)

ロクダイ



旧永島家住宅のロクダイでは、火吹き竹で炎を大きくしながらご飯炊きができます。

火おこし



火おこし道具を使って木に摩擦を加えると、火を起すことができます。

石臼を使った粉ひき



炒った大豆やそばなど石臼を使ってひくことができます。ひきたてのきなこは格別です。

石器を使う・作る



石器で草を切る体験だけでなく、理科の学習とも絡めて石器作りから行うこともできます。

糸紡ぎ



糸車で糸を紡ぎます。糸車の回転でヨリがかかって糸になる様子を見ることができます。

勾玉・和同開珎・鏡作り



金属を溶かしたり、石を削ったりして勾玉や和同開珎・鏡などを作ることができます。

出前授業

地域の歴史解説、遺跡のフィールドワーク等、子ども達の学びを深めたり、興味・関心を高めたりするための出前授業があります。また、資料館で保存されている資料等を活用した講義を受けることもできます。

丹後の歴史



「古墳時代の丹後の遺跡や丹後王国」「宮津城の歴史と北前船」「校区の歴史」等身近な地域から丹後全域の歴史や遺跡について学ぶことができます。

昔のくらしと道具



道具の使い方を聞きながら、昔の道具を見たり、触ったりして、今と昔の生活様式の変化に気付くことができます。

雪舟天橋立図



雪舟の「天橋立図」などの美術品とも関連させて歴史を学ぶことができます。

収蔵資料等の貸出

資料館には、昔の農具・生活用品等様々な収蔵品や体験道具があり貸出可能なものもあります。実物に触れることで、子ども達の学びの意欲も高まります。(要相談)

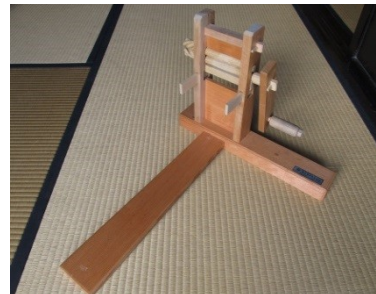
火おこし道具



糸車



綿繰り機



背板



洗濯道具



石器



土器



ガラス釦 (レプリカ)



土笛



写真パネルの貸出

普段は展示されていませんが、丹後大震災時の写真パネル等授業で活用できる資料も多数あり、貸出できるものもあります。



2 旧永島家住宅（京都府指定有形文化財）の紹介

「平入り広間型三間取り」が「整型四間取り」へ変化した初期の建物。屋根が茅葺きで、室内の天井は鉄砲梁など大庄屋らしく整えられています。



天保11年（1840年）

旧永島家住宅は、京丹後市丹後町徳光の農家の母屋として建てられた。永島家は、江戸時代に宮津藩の大庄屋を務めました。

昭和57年（1982年）

貴重な民家の末永い保存を願った当主の永島保氏から古文書や民具とともに京都府へ寄贈されました。

平成7年（1994年）

資料館へ移築後、復元・整備されました。



ナンド

家具を置いたり寝たりする部屋。機（はた）や昔の道具が置かれています。



ナベザ

いろりを囲む部屋。味噌汁作りはこのいろりで体験します。



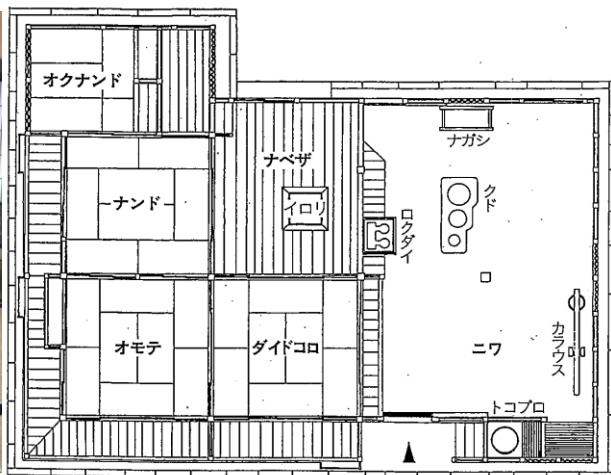
ロクダイ

近畿や中国地方では、かまどをロクダイと呼びます。木切れや薪を燃やし、火吹き竹で空気を送り込みます。



ダイドコロ・オモテ
（手前）（奥）

体験活動では、台所で野菜を切るなど料理の準備をし、この2部屋の座敷で、食事をとります。



トコプロ

底が釜になっている五右衛門風呂があります。入浴のときは、浮いている底板を踏み沈めて入りました。



ナガシ

野菜を洗ったり、米をといだりします。昔は井戸から水を汲んで運びました。



クド（かまど）

火を使い煮炊きを行うところです。「おくどさん」と呼ばれることもあります。

昔の暮らし体験（食）～ごはん・味噌汁～

どんなに寒い日でも水で米を研ぎ、野菜を洗います。マッチをすり、木切れを燃やしながら火を起こし、火吹き竹を使って、火力の調整をします。煙が目にしみる大変な作業ですが、昔の子どもの日常が体験できます。

マッチで点火



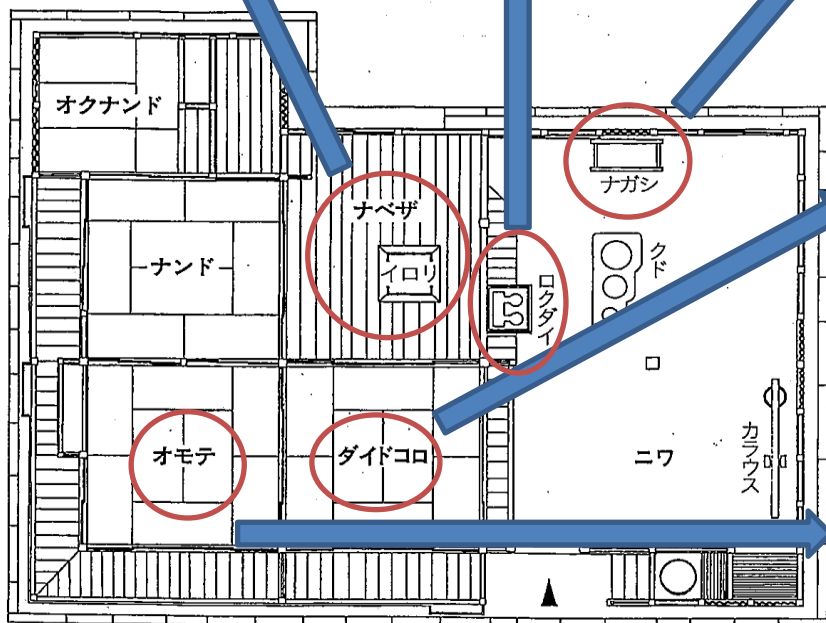
火吹き



米研ぎ



野菜切り



自分達で切った旬の野菜たっぷりの味噌汁と羽釜で炊いたごはんのおいしさは、絶品です。大根を入れた大根飯もおすすめです。炊飯器では味わうことのできないごはんの旨みを存分に味わい、釜底に残るお焦げまでおいしくいただくことができます。

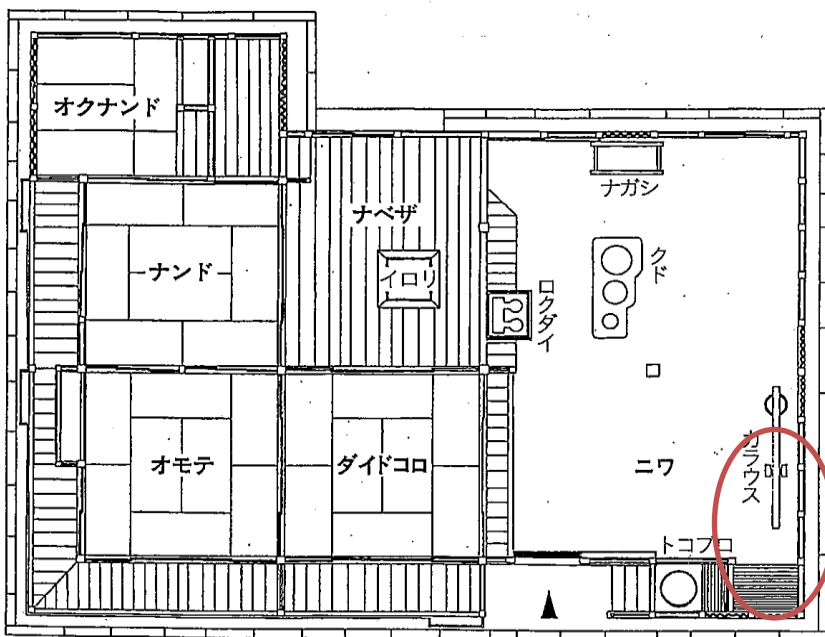
食事の様子



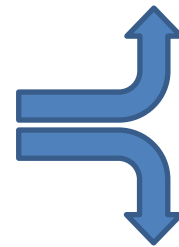
昔の暮らし体験（衣）～道具を使って～

昔は衣・食・住、全てにおいて、自然にあるもので必要な道具を作り生活していました。置かれている道具を見ると、木やわら、すげといった自然にあるものを利用し、用途に応じ使い分けするなど工夫されていることが分かり、昔の人の知恵や工夫、願いを感じとることができます。

仕事をしながら勉強する勤勉家の二宮金次郎（尊徳）が担いでいる背板。手で持つと重く感じますが、実際に背負うことで軽さを実感することができます。教科書に出てくる様々な昔の古い道具に触れることができます。



背板



かさ・みの・かんじき等



手回し洗濯機、洗濯板・たらい

昔の暮らし体験（衣・住）～道具を使って～



糸車

糸車

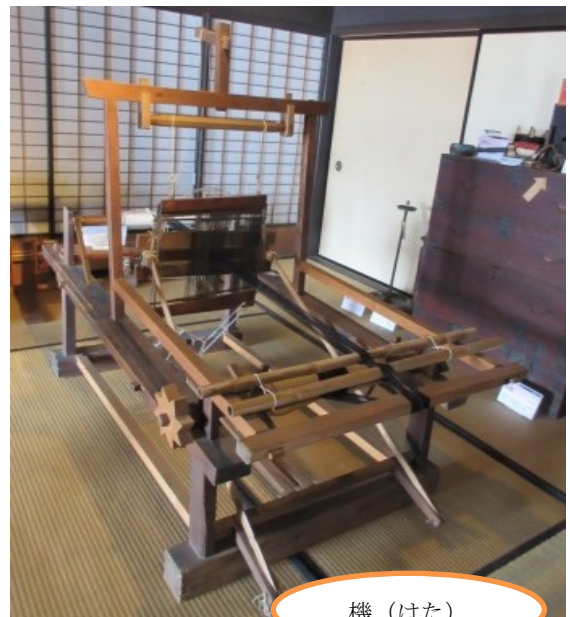
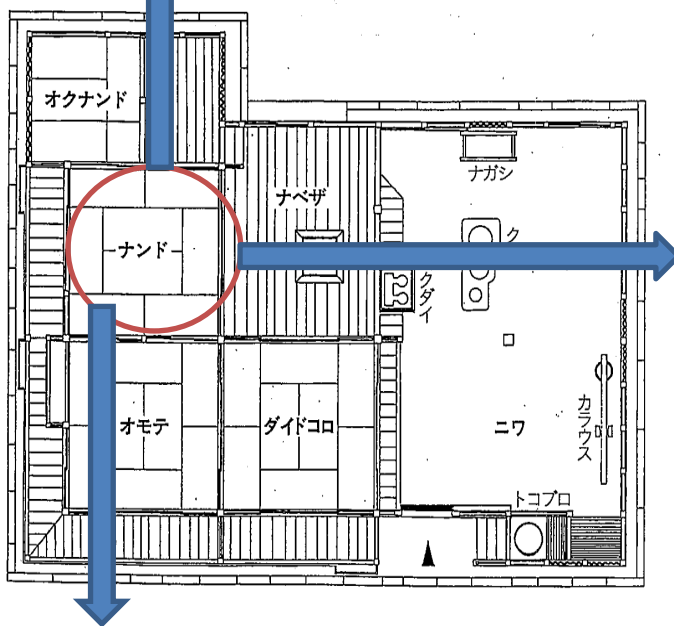
木綿を細く引き出してヨリをかけ、糸にして巻きとるための道具です。綿の実をとったものを紡いで糸にします。

「たぬきの糸車」の話に出てくるので、知っている子どもも多いです。事前に依頼しておけば実際に糸を紡ぐ体験もできます。

機（はた）織り

布を織る機械をはた織り機といいます。

紡いだ糸を使って、はた織り機で反物（たんもの）を織ります。



機（はた）



昔の家具・道具

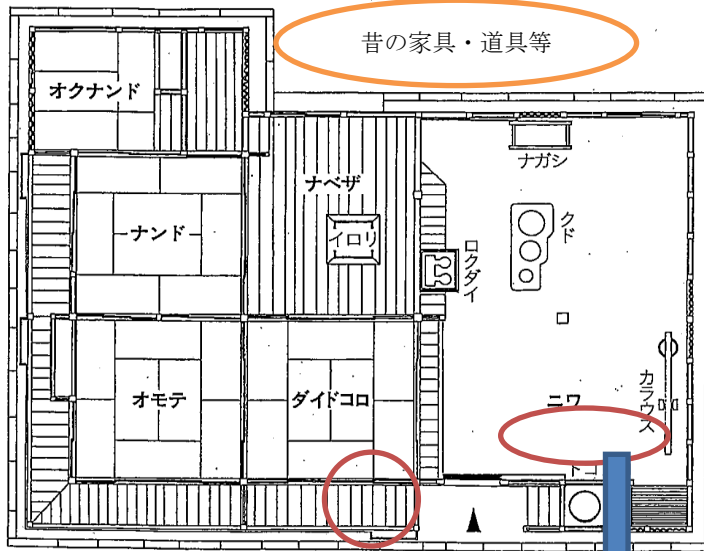
足温器や湯たんぼ、あんか、やぐらこたつ、回転式こたつといった寒さをしのぐための道具が多く置かれています。

また、夜の生活になくはならない明かりをとるための燭台、石油ランプなども置かれています。

今はスイッチ一つで明かりや暖がとれる便利な世の中ですが、“昔があるから今がある”ことを改めて実感することができます。

体験を通して様々な視点から今の暮らしと昔の暮らしを比べることができます。

農業体験～石うす・唐箕等～



足踏み脱穀機

足でペダルを踏むと、針金の付いた部分が回転し、稲をあてると米が取れます。

唐箕（とうみ）

ハンドルを回して風をおこし、米ともみに分けます。上から米を入れると、重たい米は下に落ち、実っていない軽い米やもみ、わら等は違う所から出てきます。

石うす



唐箕（とうみ）



そば粉・きな粉作り

米やそば、豆類を石うすでひいて粉にします。煎った大豆を石うすでひき、きな粉にしておもちにつけたり、きな粉あめにしたりして食べることもできます。

トチの実を使って「モチモチの木」の登場人物の豆太が大好きなもちを作ることもできます。

「石うす」「昔のおやつ」「大豆」等、活動にあわせて本を選定し、絵本の読み聞かせをすることもできます。

昔の農業体験

足踏み脱穀機や唐箕を使って、収穫した稲をわらと米に分ける作業をすることができます。

機械でするとあっという間の作業でも、手作業となると大変な労力と時間がかかり、昔の人の大変さが痛感できます。

総合的な学習の時間や社会科で学んだ農家の仕事「米作り」の学習に併せて体験活動を入れたり、ご飯・味噌汁作りをしたりすることもできます。

昔のくらしの体験（食）



いろり

いろりに火がつくと一気に部屋が暖まります。いろりは、家族が集まって、団らんをする大切な場所です。

味噌汁ができるまでの間、いろりを囲みながら昔話を聞いたり、昔の道具の使い方を聞いたりするなど時間の使い方は工夫次第です。

調理、食事に使う昔の道具

階段ダンスの上には、調理や食事に使う昔の道具が置かれています。

今の道具と比べたり、何に使ったものか予想させたり、そのためにどんな工夫がされているのか考えさせたりすることでイメージが広がり、学習が深まります。

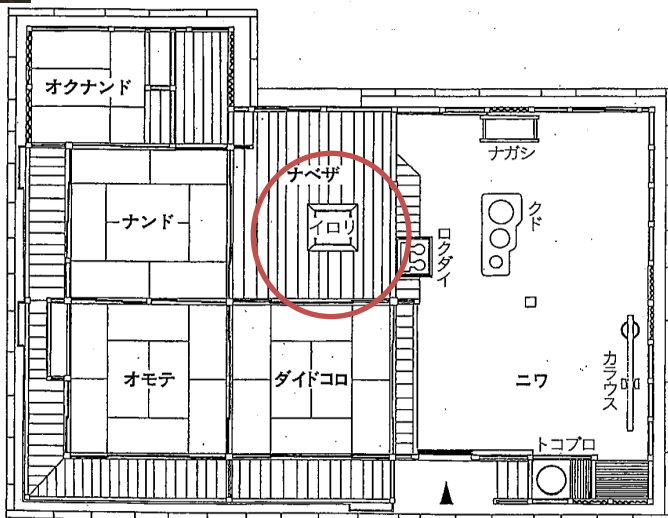


箱膳

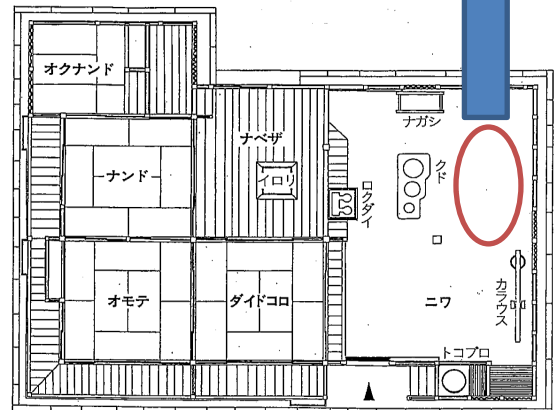
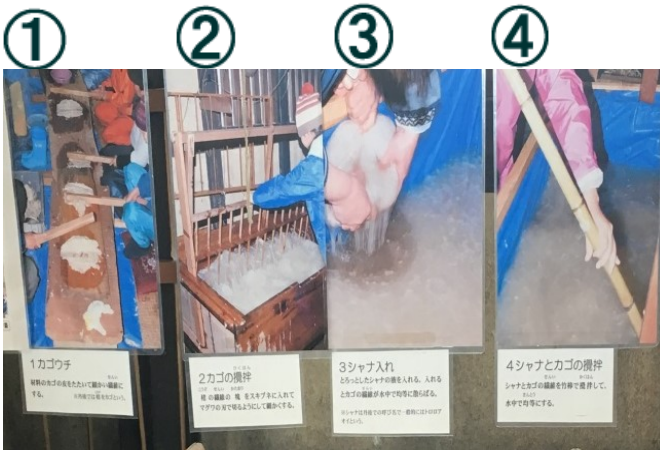
調理、食事に
使う昔の道具

箱膳

ちゃぶ台で家族が食卓を囲む習慣がなかった時代は、一人一人が箱膳の中に自分の食器を入れていました。食事をするときは、フタをひっくり返しお膳にし、食器を並べて食べました。食べ終わると、茶などで流し食器をきれいにして箱の中にしまえます。毎日食器を洗う習慣は、昔はなかったということです。



紙すき



紙すきの材料

カゴ（コウゾ）、シャナ（トロロアオイ）

紙すき前の工程

- ① カゴウチ
材料のカゴの皮を叩いて、細かい繊維にする。
- ② カゴの攪拌
繊維の塊を細かくする。
- ③ シャナ（トロロアオイ）入れ
自然のりであるシャナを加えることで、とろみを出す。
- ④ シャナとカゴの攪拌
シャナとカゴの繊維を、攪拌し水中で均等にする。

紙すきの工程

原料収集 → 皮取り → 煮沸
→ 塵取り → 叩解（こうかい）
→ 紙すき → 圧搾 → 乾燥

紙すきは、すき舟に水をはり、上の工程で攪拌させた紙料を簾（す）の張った桁ですくいあげて広げ、厚さを均一にしながら繊維をからめていきます。この作業を繰り返していきます。



3 体験学習・出前授業の例

丹後郷土資料館では学習プログラムが用意されているというわけではなく、その内容は「こんなことがしたい」「こんなことができないか」という要望に基づき、学芸員と相談しながらつくっていきます。例えば、勾玉づくりの活動を小学校で行う場合、社会科の歴史授業で行う活動と図画工作やクラブ活動で行う活動とでは、ねらいが異なるため、その学習や活動内容も異なります。ですから、学習のねらいに沿ったプログラムをつくりまします。

以下に挙げたものは、体験学習・出前授業の実施例です。「昔のくらしとかまど体験」や「勾玉づくり」のように毎年多くの学校で実施しているものもあれば、「土器づくり」や「石のナイフづくり」「丹後の昔話・伝説について」のように実施回数の少ないものもあります。

ねらいに応じたより効果的な学習（活動）となるよう、学芸員と相談しながら考えてください。

石のナイフづくり

学年

小学校高学年以上

時間

1時間

活動目的

・石から包丁（ナイフ）をつくり、昔の人々の知恵を体験的に学ぶ。

活動概要

- ・石を割って磨くところから始め、包丁（ナイフ）をつくる。
- ・できた包丁（ナイフ）で実際の紙等を切る。

事前 ・歴史の学習等の中で、昔の人々が使っていた道具について学ぶ。

本時 ・挨拶をし、講師紹介を聞く。

・めあてを知る。

・石のナイフに関する説明を聞き、実際に切れ味を確かめる。

・つくり方の説明を聞く。

・石から包丁（ナイフ）をつくる。

・できた包丁（ナイフ）で葉や紙等を切る体験をする。

事後 ・体験等に係る感想をまとめる。

留意点

- ・材料の石は資料館に相談してください。
- ・刃先はかなり鋭いです。安全には十分留意し行ってください。



<プログラム組み合わせ例>

「石のナイフづくり」+「火おこし体験」

火おこしと併せて2時間程度かかります。

土器づくり

学年

指定なし

時間

3時間

活動目的

・土器を実際に自分の手でつくることにより、歴史への関心を深める。

活動概要

- ・土器を見て触れた後で実際に土（粘土）をこねて土器をつくる。
- ・模様や形を工夫する。

- 事前**
- ・土器が使われていた頃の歴史について学習をする。
 - ・つくりたい土器のデザインを考える。（土器は約 20cm の高さ）
- 本時**
- ・挨拶をし、講師紹介を聞く。
 - ・めあてを知る。
 - ・土器に関する説明を聞く。
 - ・作り方の工程を聞き、土器づくりを行う。（焼く前の状態で終了）
- 事後**
- ・体験等に係る感想をまとめる。

留意点

- ・この学習は、社会（歴史）や家庭（調理）、理科（熱の伝わり方）、総合的な学習の時間等との関連が考えられます。
- ・土器づくりは、作業説明から完成まで授業 2 時間分かかります。事前学習の復習や片付け等も含めて授業 3 時間分となります。
- ・出前授業として学校で行う場合は、土を使用するので、図工室等作業ができる場所での実施を検討ください。
- ・自然にある土から粘土を集める体験もできますが、その場合、時間と場所の確保が必要となります。材料費（粘土代）として 500 円程度かかりますが、粘土を準備してからの体験をおすすめします。

<プログラム組み合わせ例>

「土器づくり」＋「古墳等から丹後の歴史を学ぶ」＋α

資料館で2つのプログラムを実施し、昼食（弁当）を食べ、午後からバスで古墳公園へ移動し古墳見学を実施する。昼食場所として、資料館前の芝生や旧永島家住宅等が利用可能。（雨天時は資料館研修室も使用可能）

「土器づくり」＋「火おこし体験」＋「土器で湯沸かし」

資料館で2つのプログラムを実施し、最後におこした火を使って土器（つくれた土器は当日使用不可。資料館の土器を使用）で湯を沸かすところまで実施。

勾玉づくり

学年

指定なし

時間

1 時間

活動目的

・勾玉を実際に自分の手でつくることにより、歴史への関心を深める。

活動概要

- ・勾玉に触れる。
- ・事前に考えてきたデザインを基に勾玉をつくる。

- 事前**
- ・勾玉が使われていた頃の歴史について学ぶ。(いつ、だれが、何のために等)
 - ・勾玉のデザインを本時までを考えておく。(勾玉は約4cm程度の大きさ)
- 本時**
- ・挨拶をし、講師紹介を聞く。
 - ・めあてを知る。
 - ・出土品を見ながら、勾玉に関する説明を聞く。
 - ・勾玉のつくり方を聞く。
 - ・考えてきたデザインを石に描き写し、削って形を整え勾玉をつくる。
- 事後**
- ・体験等に係る感想をまとめる。

留意点

- ・勾玉づくりは、作業の説明から完成まで授業 1 時間程度、歴史的な部分からの説明を加えると授業 2 時間程度かかります。
- ・学校で実施する場合は、勾玉を削った際に白い粉が出るので、図工室等作業ができる部屋での実施を検討ください。
- ・材料費 1 セット 300 円程度かかります。(勾玉用 2 個、管玉用 4 個入り)
(セット内容のものを分けて使うこともできます。)
- ・「古墳等から丹後の歴史を学ぶ」と組み合わせて実施することで、古墳時代等の丹後の歴史と自分のつくるものとを結びつけながら学習できます。



<プログラム組み合わせ例>

「勾玉づくり」＋「古墳等から丹後の歴史を学ぶ」

資料館で2つのプログラムを実施し、午後から古墳公園（与謝野町加悦）等に移動し古墳を見学することも可能です。昼食場所として、旧永島家住宅や資料館前の芝生等が活用できます。(雨天時は研修室での対応が可能)

銭づくり

学年

指定なし

時間

1 時間

活動目的

・和同開珎を実際に自分の手でつくることにより、歴史への関心を深める。

活動概要

- ・和同開珎が使用されていた時代について学ぶ。
- ・和同開珎を見て触れた後で実際につくる。

- 事前**
- ・お金が使われるようになった理由等について学習を進める。
 - ・和同開珎が使われていた頃の歴史について学習する。(いつ、だれが、何のために等)
- 本時**
- ・挨拶をし、講師紹介を聞く。
 - ・めあてを知る。
 - ・和同開珎づくりに関する説明を聞く。
 - ・実際に和同開珎をつくる。
- 事後**
- ・体験等に係る感想をまとめる。
 - ・和同開珎だけではなく、今の生活との繋がりの中で、現代のお金についても関心を高めていく。

留意点

- ・学校で実施する場合、図工室等作業ができる部屋での実施を検討ください。
- ・材料費 200 円程度（2 枚分）がかかります。
- ・一度に 18 枚の和同開珎をつくることができます。
- ・「和同開珎」と「富本銭」の違いやお金の歴史も学習できます。



<プログラム組み合わせ例>

「貨幣の歴史」＋「銭づくり」

資料館で「貨幣の歴史」について学習し、その後に日本で鑄造・発行された最初の流通貨幣である和同開珎をつくる。

「銭づくり」＋「勾玉づくり」

費用がかかりますが、説明と合わせて3時間程度の時間で実施が可能です。

火おこし体験

学年

小学校高学年以上

時間

1 時間

活動目的

・実際に火おこしの体験をして、昔と今の生活を比べる。

活動概要

・火を使う前と後の人々の生活状況の変化等を学ぶ。
・火おこしを行う。

- 事前**
- ・人間が火を使うようになった歴史を学ぶ。
 - ・火は便利なものであると同時に危険なものであることも学ぶ。
 - ・火おこし体験のペアやグループ（2～4人）を決めておく。（道具が約 10 セット）
- 本時**
- ・挨拶をし、講師紹介を聞く。
 - ・めあてを知る。
 - ・火は便利なものであると同時に危険なものであることを再確認する。
 - ・道具の使用に係る説明を聞く。
 - ・火おこし体験を行う。
 - ・今の生活で、火が使えなくなったらどうなるのかを考え、使いたい場面ですぐに火が使える今の生活の便利さを改めて感じる。
- 事後**
- ・学習の振り返りとまとめを行う。

留意点

- ・火を扱うので、小学校高学年以上での体験を想定しています。
- ・道具は全て資料館にあります。
- ・出前講座で実施する場合、実施場所としては、屋外で風の少ない場所を設定してください。やむを得ず屋内で実施する場合は、煙の量が多くなるため、火災報知器が誤作動しないように注意が必要です。また、木くず等の散乱や焦げ防止のために、シート等を床に敷いて実施してください。
- ・火おこしの道具のみの貸し出しも可能です。その際、火を扱うので児童生徒の安全に十分留意するとともに消火用バケツ等の準備をお願いします。



<プログラム組み合わせ例>

「土器づくり」＋「火おこし体験」＋「土器で湯沸かし」

資料館で2つのプログラムを実施し、最後におこした火を使って土器（つくった土器は乾燥が必要のため当日使用不可。資料館の土器を使用）で水を沸かす。この場合、授業4時間分の時間が必要となります。

綿繰り・糸紡ぎ体験

学年

指定なし

時間

1 時間

活動目的

・綿繰りから糸を紡ぐことで、どのように糸ができているかを実感する。

活動概要

- ・綿繰りを行う。
- ・糸紡ぎを行う。

- 事前**
- ・綿を使っている服等の繊維を解き、布が糸からできていることを学ぶ。
 - ・市販されている綿糸を解いて、どのような状態なのかを調べる。
- 本時**
- ・挨拶をし、講師紹介を聞く。
 - ・めあてを知る。
 - ・糸紡ぎに関する説明を聞く。
 - ・綿繰り機を使って綿から種を取り除く。
 - ・糸車を使って綿から糸を紡いでいく。
- 事後**
- ・学習の振り返りとまとめを行う。

留意点

- ・本プログラムは、国語教材「たぬきの糸車」や総合的な学習の時間等で活用できます。
- ・資料館に綿繰り機が2台、糸車が1台しかないため、他のプログラムと併用することで、見るだけでなく全員体験することができます。
- ・材料の綿花は資料館に用意がありますが、ふとん綿等を各校で準備し持つて行くことで多くの児童生徒が体験できるようになります。
- ・できた糸を巻きつけておくための割り箸や画用紙等は学校で準備し、持参してください。



<プログラム組み合わせ例>

「綿繰り・糸紡ぎ体験」＋「資料館の見学」

人数によっては「綿繰り・糸紡ぎ体験」の待ち時間が長くなります。2グループに分かれ「資料館の見学」を並行して行うことで、時間を有効に活用できます。

昔のくらしとかまど体験

学年

指定なし

時間

3 時間

活動目的

・古い道具を使っていた頃の様子を知り、今の生活と比べる。

活動概要

・保管されている古い道具について知り、昔のくらしを体験する。
・かまど体験では、かまどを利用して大根飯や味噌汁を作る。

事前 ・資料館ホームページ（学校向け→昔のくらし常設展）に掲載されている古い道具を調べる。

（何に使うのか考えたり、今の道具と比べたりする。）

本時 ・挨拶をし、講師紹介を聞く。

- ・めあてを知る。
- ・古い道具の説明や旧永島家住宅内での注意事項等を聞く。
- ・ホームページの写真にあった昔の道具を探し、気付いたことをメモする。
- ・使い方や工程の説明等を受けた後、身なりを整える。
- ・グループ（ごはん・味噌汁グループ）に分かれてかまど体験を行う。
- ・食事をし、片付けをする。

留意点

- ・旧永島家住宅での昔の道具の説明と見学のみなら1時間程度です。
- ・かまど体験は、大根飯と味噌汁づくりの体験ができます。食事も含めて4時間程度かかります。※かまど体験は丹後郷土資料館のホームページ参照
- ・準備物として、エプロン、三角巾等、米（1人0.5合）、大根（10人で1本）、味噌汁用の味噌と具材、出汁じゃこ（昆布）、塩等が必要になります。
（飯椀、汁椀、皿、おはし、まな板、包丁、石けん、消毒薬等は資料館にあります。参加人数により準備が必要なものがあります。事前確認を）
- ・かまど体験は20名程度までが想定人数ですが、他のプログラムと同時並行で行うと、これ以上の人数でも実施可能です。
- ・冷暖房設備はありません。服装による温度調節をお願いします。

<プログラム組み合わせ例>

「昔のくらし」＋「かまど体験」＋「希望する学習内容」

20名を越える場合、この組み合わせをお勧めします。旧永島家住宅と本館研修室に分かれて入れ替わりで実施します。「希望する学習内容」は、歴史や地域に関わること等、様々な内容が可能ですので、事前の打ち合わせをお願いします。この場合、かまど体験を入れ替わりで実施することになりますので、授業4時間分の時間が必要となります。



国分寺について

学年

指定なし

時間

1 時間

活動目的

・丹後の歴史や文化を学び、地域の歴史について認識を深める。

活動概要

・国分寺がこの地に建てられるまでの歴史や建てられた後の歴史を、丹後地方の様々な歴史との関連の中で学ぶ。

事前 ・国分寺等の歴史を学ぶ。

本時 ・挨拶をし、講師紹介を聞く。

・めあてを知る。

・国分寺がどのような時代の流れの中で建立されたのか、丹後の国分寺がなぜ府中の地に建てられたのか、当時の丹後の歴史背景を含めて話を聞く。

（質問等事前にまとめて資料館に渡して回答してもらうことも可能）

事後 ・学習のふり返りとまとめをする。

・丹後地方の歴史について関心を深めるために、自分たちの住んでいる町の歴史について疑問に思っていること等を交流する。

留意点

- ・現在、資料館の国分寺跡には、建物がなく礎石しかないため、資料館を訪問する際は他のプログラムとの併用も検討してください。
- ・奈良時代の東大寺や大仏の話と関連付け、国分寺のことを学ぶことができます。小学校6年生での実施の場合、時期を考慮し、修学旅行前に学習日程を組み、旅行の行程等を事前に資料館に伝えておくと、その行程を意識した説明をしてもらうこともできます。



<プログラム組み合わせ例>

「国分寺」＋「天橋立図」

丹後に係る中世までのまとめ学習として活用する場合は、雪舟の「天橋立図」を学習後に活用する。2時間授業で実施することが可能です。

天橋立について

学年

指定なし

時間

1 時間

活動目的

・天橋立に関わる歴史を学び、地域の歴史についての認識を深める。

活動概要

- ・天橋立の成り立ちから現在に至るまでの歴史を学ぶ。
- ・雪舟の「天橋立図」から、天橋立周辺の歴史について学ぶ。

- 事前**
- ・天橋立について、知っていることを交流する。
 - ・天橋立について、更に知りたいことをまとめる。
- 本時**
- ・挨拶をし、講師紹介を聞く。
 - ・めあてを知る。
 - ・雪舟の「天橋立図」を見ながら、周辺の歴史概要や雪舟と天橋立の関わりについて説明を聞く。
 - ・質疑応答を通して、理解を深める。
- 事後**
- ・天橋立の学習をきっかけに、地域学習や社会の歴史学習等につなげる。
 - ・水墨画に挑戦する。

留意点

- ・内容をどこまで掘り下げていくか、どのような内容にするかにより、学年やプログラムの内容、実施時間等は変わります。(要相談)
- ・事前学習で出てきた疑問について質問したり、調べたところまでの内容を発表したりすることで、学びが広がり、深まっていきます。
- ・中学校で実施する場合、雪舟「天橋立図」の既習内容に加え、地域学習としての詳細な説明を加えてもらうこともできます。

<プログラム組み合わせ例>

「天橋立について」＋「天橋立ウォーク」

日本三景について知り、天橋立の成り立ちについて学ぶ。海岸で貝がらや松並木で松ぼっくりを拾い、図画工作や生活科と関連付けた学習にする。

「天橋立について」＋「清掃ボランティア」

学校単位で天橋立の清掃活動を実施する場合は、京都府丹後土木事務所との連携が必要になります。(京都府ホームページ参照)個人等のボランティアについては様々な募集がありますので、各自で確認をお願いします。



丹後の昔話・伝説について

学年

指定なし

時間

1時間

活動目的

- ・丹後に伝わる昔話や伝説を知り、地域で大切に伝えられてきた伝統行事や文化、歴史等の認識を深める。

活動概要

- ・丹後に伝わる昔話や伝説を聞く。(語り、絵本、紙芝居、様々な文献等)

- 事前** ・本時で話してもらう昔話・伝説等に関わって、必要な事前学習を行う。
- 本時** ・丹後に伝わる昔話や伝説等について話を聞き、その内容を知る。
・昔話・伝説等の内容を知り、地域への理解を深める。
・丹後に伝わる昔話や伝説等の書かれた本を読む。
- 事後** ・本時の内容を受けて、さらに学習を進めるために必要な調べ学習等を行い、学びを深める。
・丹後地方の歴史について関心を深めるために、自分たちの住んでいる町の歴史について疑問に思っていること等を交流する。

留意点

- ・丹後教育局管内の各市町には、様々な昔話・伝説等があります。
- ・【丹後に伝わる昔話、伝説等】
安寿と厨子王、天橋立、浦島伝説、丹後七姫、徐福伝説、大江山の鬼、つかずの鐘（成相寺）、羽衣伝説等
- ・出前授業として学校で話を聞くこともできますし、地域に出向いてフィールドワークをしながら実物と昔話をつないで学習することもできます。

<プログラム組み合わせ例>

「丹後の昔話・伝説について」＋「校区探検」

校区探検で地域に残る古いものを調べる学習の後、見てきたものや聞いてきた話を更に広げるために自分達の地域に伝わる昔話を聞く。

「丹後の昔話・伝説について」＋「丹後震災」

丹後震災について学習し、震災に関わる昔話や言い伝えを聞く。



4 参考資料

平成 28 年度管内体験活動・出前授業等一覧

	種別	学校区分	学年	内 容
資料館での学習	体験活動	小学校	3年	かまど体験
			3年	糸紡ぎ体験
			3、4年	石うす体験（そば粉挽き）
			3、4年	かまど体験
			5年	火おこし、かまど体験
		中学校	1年	火おこし、糸紡ぎ体験
	1年		勾玉づくり	
展示見学	中学校	1年	講義「古代の丹後（縄文～古墳）」と展示見学	
出前授業による学習	体験活動	小学校	1年	糸車体験
			5年	勾玉づくり
			5年	勾玉づくり
			6年	鏡づくり
			6年	火おこし体験
			クラブ活動	火おこし体験
			親子行事	勾玉づくり
		中学校	1年	勾玉づくり
	講義	小学校	3年	講義「昔の暮らしと道具」
			3年	講義「かわってきた人々の暮らし」
			5、6年	講義「我が校の歴史について」
			6年	講義「縄文～古墳時代の遺跡と人々の暮らし」
			6年	講義「古墳時代の遺跡と丹後王国」
			6年	講義「宮津城の歴史、北前船について」
			6年	講義「雪舟の天橋立図及び府中地区に伝わる民話」
			6年	講義「天橋立図の解説及びその当時の様子」
			6年	講義「発掘調査の実際と学校付近の遺跡」
			6年	講義「地域の歴史を探る」
			6年	歴史の調べ学習 講師
		中学校	1年	講義「縄文～弥生時代の遺跡と人々の暮らし」
	2年		講義「通学路から歴史を見つめてみよう」	
	1年		勾玉づくり	
	フィールドワーク	中学校	1年	「宮津城と城下町の歴史」

資料借用依頼

平成 年 月 日

京都府立丹後郷土資料館長 様

住 所
機 関 名
代表者名
電 話



貴館所蔵の資料を下記のとおり借用したいので許可をお願いします。なお、許可の上は使用目的以外には使用いたしません。

また、借用した資料は、責任を持って保管します。

記

1 資料名称

2 借用期間 平成 年 月 日から
 平成 年 月 日まで

3 使用期間 平成 年 月 日から
 平成 年 月 日まで

4 借用目的

資料館決裁欄

館 長	総務課長	資料課長	総 務 課	資 料 課

資料館返却確認欄

返 却 日	年 月 日	確 認 者	
-------	-------------	-------	--

展 示 室 観 覧 料 減 免 申 請 書

平成 年 月 日

京都府立丹後郷土資料館長 様

申請者 住 所

(所在地)

団体名

(学校名)

代表者

(校長名)

印

(電話 - -)

下記のとおり展示室観覧料の減免を申請します。

記	教育委員会 経 由 印	
使用日時	年 月 日 (曜日)	午前(後) 時 分から 午前(後) 時 分まで
行 事 名		
参 加 者 数	大人 名 引率者 名 小人 名	計 名
引率責任者 職 氏 名		
※決定事項		
備 考		

- (注)
- ① ※印は、記入不要です。
 - ② 学校からの申請は、教育委員会経由印がなくてもかまいません。
 - ③ 参加者数欄の小人とは、小中学校及び特別支援学校の小・中学部の児童生徒をいいます。